

総合科目「核を考える」 シラバス

1. 周辺教養科目
2. 対象学生 すべて
3. 対象学年 全学年
4. 授業科目 総合科目「核を考える」
- 5.
6. 開講学期 前期 水曜日 5時限
7. 単位数 2単位
8. 担当教官名及び所属
直野章子（比較社会文化研究院）
吉岡 斉（比較社会文化研究院）
豊島耕一（佐賀大）
仲秋喜道（玄海町東光寺住職）
本庄春雄（総合理工学研究院）
三好永作（総合理工学研究院）
9. 履修条件 なし
10. 授業の概要及び授業計画

授業の目的

現代は「核時代」である。全ての人間が軍事利用と民事利用の両面で、「核」と付き合いわざるをえない状況が、過去半世紀にわたって続いてきた。今後も長期にわたって、人類は「核との共存」を続けるものと予想される。この授業の目的は、「核時代」の現状を正確に理解するための総合的知識を、学生に分かち与えることである。

授業の概要

講義の前半部（第1～5回）では、核エネルギー利用に関する科学的・技術的な基礎知識を一通り学ぶとともに、世界と日本におけるさまざまな核施設・核装置の利用の現状について、総括的認識を得る。次に後半部（第6～13回）では、グローバルな見地から核時代の社会的・思想的意味を総合的に考える。そのために欠かせないのは、「人類の原爆体験をどのように考えるか」という問いである。そこでこの問いに直接関わる話を第7回目に用意した。

授業の日程（担当教官）

第1回（4月16日）オリエンテーションー核時代について学ぶことの意義（三好）

核分裂・核融合エネルギーの放出機構とその特徴

第2回（4月23日）放射線・放射能の発生機構とその特徴（本庄）

その環境への影響と対策。その人体への影響と対策

第3回（5月7日）核時代を支える技術体系（その1）（本庄）

核分裂爆弾と核融合爆弾。およびそれらの運搬手段（ミサイル、航空機、潜水艦）

第4回（5月14日）核時代を支える技術体系（その2）（豊島）

核分裂炉と核融合炉。その軍事利用と民事利用の方法。2つの利用法の相互関係

第5回（5月21日）核時代を支える技術体系（その3）（豊島）

ウラン濃縮・再処理。その軍事利用と民事利用の方法。2つの利用法の相互関係

第6回（5月28日）日本の原爆被害における被爆の実相と被爆者の実情（三好）

「人類の原爆体験をどのように考えるか」という問に最も関わる話として、被爆者から直接的に被爆の実相と被爆者の実情を聴く。

第7回（6月4日）原爆被害と政治（直野）

第8回（6月11日）「地域から核問題を考える」（仲秋喜道氏，玄海町東光寺住職）

第9回（6月18日）核エネルギー開発利用の歴史と現状（その1）（吉岡）

軍事利用と民事利用を串刺にした時代区分を行い、各時代の動きを概観。国別の動きだけでなく国際的なシステムの動きにも注意を払い両者の密接な連動関係を明らかにする。

第10回（6月25日）核エネルギー開発利用の歴史と現状（その2）（吉岡）

日本の核エネルギー開発利用システムの構造的特徴（二元体制的サブガバナメントモデル）を明らかにし民事利用に関する時代区分を行い、各時代の動きを概観。

第11回（7月2日）核時代における科学者・技術者の責任。（吉岡）

核エネルギー開発利用に関わる事業や政策は、軍事目的と民事目的を問わず非常に大きな社会的影響をもたらす。したがってそれが公共利益に合致した形で行われる必要があり、そこでの科学者・技術者の責任は大きい。それについて総合的に検討。

第12回（7月9日）転換期の核時代（その1：軍事利用を中心に）（吉岡）

冷戦終結以降、核エネルギー開発利用は軍事目的と民事目的の両面で大きな構造変動の時代に入っている。その流れに日本も基本的に乗っている。そうした転換期の動向について広い視野に立って考察。（吉岡先生は、日本の原子力政策論争の主役の一人をつとめているので日本の動きについてはリアルな話が提供されると期待できる）

第13回（7月16日）転換期の核時代（その2：民事利用を中心に）（吉岡）

日本人の核意識に見られる2つの特徴（「唯一の被爆国」という思い込みとエネルギー安全保障の強迫観念）、これらが自国の核エネルギー開発利用に関する正確な自己認識を阻害し、核エネルギー開発利用の是非と在り方に関する正確な判断を不可能にしている。そのことを明らかにし、それらを克服した新たな考え方のデッサンを提示。

11. 授業の進め方

毎回プリントやPowerPoint ファイルをもとに講義を進める。

12. 教科書及び参考図書

13. 試験成績評価等

講義毎にレポート課題を出す。それらのレポートの評価を総計する。

14. その他

ホームページ：<http://meg.cube.kyushu-u.ac.jp/~meg/index-j.html>

の講義関係の中に講義資料など